

## 若手による研究基盤の实地調査 第3弾

### ・目的

若手ネットワークのメンバーと機関の研究基盤に関わる人材が現場視察を通じて連携し、現場レベルでの実情や課題から政策に繋がるきっかけ作りを行う。また、人的な交流を通して将来の組織運営・連携に繋がる機関を超えたネットワークを形成する。

### ・日程

2024年10月2日(水) 午後(施設見学:13時~15時50分 意見交換会:16時~17時15分)

2024年10月3日(木) 午前(施設見学:10時~10時30分, 12時~12時30分 意見交換会:10時30分~12時00分)

### ・場所

東北大学 青葉山キャンパス、片平キャンパス

### ・参加者(若手ネットワーク)

植原 邦佳、江口 奈緒、木戸 拓実、中野 知佑、服部 崇哉、松本 香、横野 瑞希

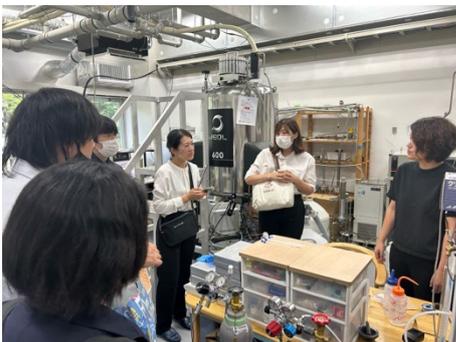
### ・内容

1日目 工学研究科・多元物質科学研究所・産学連携先端材料研究開発センター

【施設見学】(見学順)

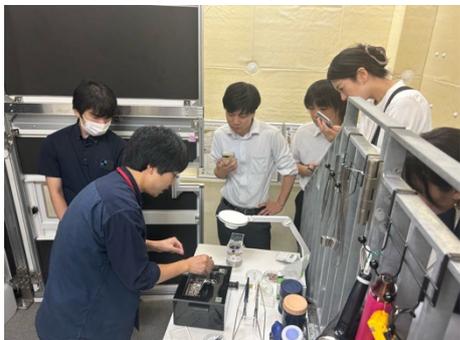
1. 工学研究科 NMR

安東 真理子 技術専門職員



## 2. 多元物質科学研究所 クライオ電子顕微鏡

海原 大輔 技術職員



## 3. 産学連携先端材料研究開発センター XPS

雁部 祥之 技術職員



### 【意見交換会】

場所：東北大学片平キャンパス産学連携先端材料研究開発センター1階会議室、オンライン併用（Zoom）

進行：木戸

参加者（現地）：海原、雁部、坂園、松田（東北大学）、植原、江口、木戸、中野、服部、松本、横野（若手NW）

参加者（オンライン）：廣瀬、松岡（若手NW）

0. 自己紹介 各1分程度

1. 若手ネットワークについて（江口）

2. 東北大学取り組みについて（坂園）

3. 意見交換

4. 締め



### (概要)

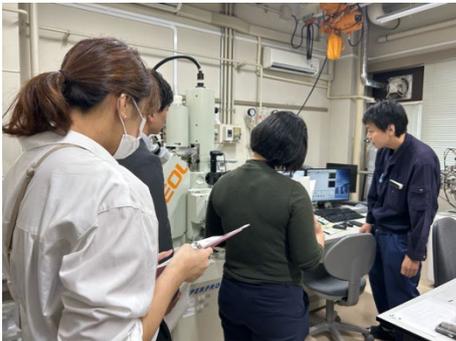
若手ネットワークより本ネットワークの紹介を行ったあと東北大の取組紹介が行われた。その後の意見交換では東北大学の参加者からそれぞれが感じる課題が共有された。人材不足、部局を超えた業務分担、事務職員と技術職員の関わりの機会の不足などが挙げられた一方、総合技術部の職群制による好事例も挙げられた。参加者の職種が URA、技術職員、事務職員と揃っていたことで他職種の連携による課題解決についても議論を行うことができ、職種を超えた連携・コミュニケーションの重要性を改めて認識した

## 2 日目 金属材料研究所

### 【施設見学】(見学順)

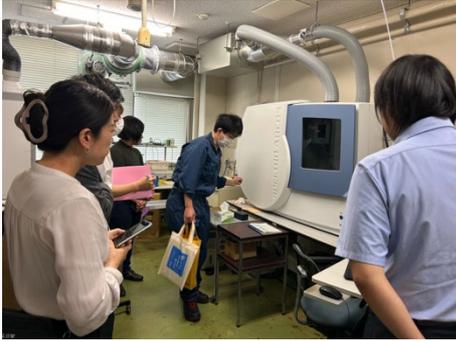
#### 1. 金属材料研究所 新素材センター

大村 和世技術専門員、成田 一生 技術専門職員



#### 2. 材料分析研究コア (意見交換後)

坂本 冬樹 統括技術専門員、千葉 友幸 技術専門職員、椛沢 祐輔 技術職員



### 【意見交換会】

場所：東北大学片平キャンパス金属材料研究所技術棟 2 階会議室、オンライン併用 (Zoom)

進行：木戸

参加者（現地）：板垣、大村、椛沢、坂本、菅原、千葉、成田（東北大学）、植原、江口、木戸、中野、服部、松本、横野（若手 NW）

参加者（オンライン）：廣瀬（若手 NW）

0. 自己紹介 各 1 分程度
1. 若手ネットワークについて（江口）
2. 金属材料研究所テクニカルセンターの紹介（坂本）
3. 意見交換
4. 締め

#### （概要）

若手ネットワークより本ネットワークの紹介を行ったあと金属材料研究所テクニカルセンターの紹介が行われた。その後の意見交換では 1 日目と同様に東北大学の参加者からそれぞれが感じる課題が共有された。職群でのチーム活動に関して 1 日目と同様に好事例が挙げられた一方、人による温度差や通常業務との兼ね合いといった課題も挙げられた。そのほか人材不足や採用のタイミングによる技術継承の難しさなども挙げられたが、採用の課題に対して、若手 NW から先行採用の好事例が紹介された。

### 【本活動における所感】

学部、共共拠点の研究設備の見学において、いずれの施設でも総合技術部に関する言及があった。職群制により、規模の大きい大学でありながら横の繋がりができていると感じられた一方で、アドオン業務や採用面などの課題も挙げられた。また、他の分野や学部など多様な技術職員から広く声を集める必要があると感じた。技術職員、URA、事務職員と幅広い職種を集めて意見交換を行い、それぞれの立場の課題を共有できたことは有意義

であった。技術職員と URA・事務職員間のコミュニケーションの場が希薄であることを改めて認識できた。この視察における意見交換会が学内での多職種の交流の場となったことは一つの成果であり、職種間の連携促進に繋がる交流の場づくりを今後若手 NW が提供していくことができれば更に有意義な取組となると感じた。

#### 【今後の活動について】

今回の視察を通じて、コミュニケーションの機会の不足は多くの課題の根本にあると感じ、交流の場の重要性を認識した。特に他職種との関係が希薄であった技術職員が URA、事務職員と協働し、多角的な視点を持つことで技術職員が抱える問題は解決に繋がる期待があり、職種を超えたコミュニケーションの場をこの現地視察で作っていくことを今後検討する。

#### 【今後の視察における注目点】

多職種の交流の場作りから生まれる連携

#### 【提言につながるキーワード】

総合技術部、職群によるチーム・横の繋がり、複数の職種が協働する実務者 WG